
戦争と平和と天皇陛下

来々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争と平和と天皇陛下

【著者名】

N2368B

【作者名】

来々

【あらすじ】

戦争とは本当に酷いものなんだと思います。だから、戦争のせいで狂つてしまつた人間も、沢山いると思うんです。

(前書き)

この作品は、今までにない駄作です。意味不明です。それでも読みたい方は、どうぞ。

挾啓

最愛の我が妻、そして我が子供達へ。
まず先に言つておこう。まだ当分、そつちには帰れそうもない。
ここは酷い所だ。

毎日人に銃を向けなければならない。
毎日人に銃を向けられなければならない。
人を撃つのは嫌だ。

とても嫌だ。

引き金を引いた後に、手にジーンと残るんだ。
手に撃つた感触が残るんだ。
人を撃つたと実感させられるんだ。

遠くから撃つと、人はあつけなく死ぬ。簡単に死ぬ。
近くから撃つと、人が苦しんで死ぬのを見る事になる。
人の命がこんなに軽いモノであるハズがない。
だが人は、銃で撃つとすぐに死ぬんだ。

まだ、歸れそうにない。

いくら撃つても終わらないんだ。いくら撃つても戦争が終わらない
んだ。

自分が何故撃つているか、何を撃つているかわからなくなるんだ。

ここは酷い。

ここは怖い。

怖い、恐い。

まだ、帰れそうにない。

何を書いているんだ。
何を書いているんだ。

こんな事を書いては、天皇陛下への不敬と取られてしまうだろう。
だが後に生きる人々は、この戦争を知らなければならない。
否、知つて欲しい。だから書いている。

まだ、帰れそうにない。

私は昨日も、今日も人を殺した。この戦場で生きているヤツは、もう皆人殺しだ。
私もだ。

もう神は私を許してくれないだろう。
だからせめて妻よ、子供達よ。

私を許してくれ。

まだ、帰れそうにない。

八月七日

敬具

「…………」の手紙が届いた頃には、戦争は終わっていました。私の夫は、私達家族のために、戦争の恐ろしさを教えてくれました。」

「IJの手紙が届いた時、世間は九月だというのに、まるで夏みたいな暑い日でした。郵便局の方が、『旦那さんはお国のために、立派に戦つて死んでいったそうですよ』と言いました。」

「皆さん、「お国のために」とは何でしょうか?皆さん、覚えていて下さい。國といつのは、私達のために有るハズです。私達がいてこそ有るハズです。」

「こんな事を言つてはいけないでしょつか。」

「でも、言ひます。」

「天皇とは、本当に必要ですか?」

「さあ、私達で新しい日本を作りましょう。新制日本の幕開けですよ。」

『六時の一ニュースです。今日未明、皇居近くにおいて大規模な逮捕劇がありました。主犯の人物は八十歳を超える女性で、戦争による孤児や未亡人を集め、天皇陛下の殺害をもくろんでいた模様です。調べによりますと』

追伸

妻へ、

私はもう帰れないかもしねれない。
だから妻よ。

日本をもつと良い国にしてくれ。

天皇陛下とともに、日本をもつと良い国に

(後書き)

こんにちは。来々です。今回の作品は……なんか変ですね。意味が解りませんね。それでも最後まで読んでくれた方、有難うござります。次こそ頑張ります。次回作にご期待下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2368b/>

戦争と平和と天皇陛下

2010年10月22日09時01分発行